

へ遠 13
2209
47

繪本豊臣勲功記五編卷之七

因縁

明智主從逼憤怒遂叛逆

屬 宏愛連殆

光秀不察宇野條和害之

屬 龜山調軍

明智光秀謀叛圍本林寺

屬 諸士戰死

右大臣侍生害蘭丸戰死

屬 安國繪功



繪本豊後歎功記立編卷之七

櫻澤堂山編輯

明智主從逼憤怒遂叛逃屬宮愛連砍

君との臣を見ること。眞土の如くもる胸へ。馬亦君を寇讐の如くもる。先言頗裏思ひか。明智自向守光秀。既に主君の瞋を彼り。安政司の職を退除られたるのをかく。蘭丸をさりて櫛辱せしを。心中湧が慷慨に怨ると。必ず急ゆも出でて帰館へけり。光秀が臣家明智大馬公同治大將。四十郎左衛門妻本主計頗。四三天。但馬守。並河掃部分村上和泉守奥田大将。三宅友左清源尾庄吉清進士作左房。海主人のひと嘆察。怒を含で稟けり。原来公ハ源家の末孫。祇田家譜代の長家小もあらず。然るふ遠遭かく。極く非道の所作。祇令祇田家を離すとも不可ある。あくびすく。意

だ急山坂をひうちひづきへすこも御退をゆり。御葬慣とちくとせり。お
所准備くこと。異口同様に勧むる。先秀得と聆うて。各縦の忠信。感ぞれ
極たり。然みがく吾一端誠田家の福とぞ。軍令意の隨にて。國々を攻靡け。今自
本に名を流す。食信長の恩義をくどや。卿の事を憤り。又忠不義の名を
被ふこと。是さう在らる。不よレバ様。ま裏高をかくど。船もりび四至天声
に憤怒を發して曰。君とくに義をあむと。臣忠節を竭むる。不仁の
君下にはくいかで。忠義のひあく。我君これまで幸若しゆひ。数百
揚の軍を。俺们が身に序附も。度の断方をぬむく。斯半を忠勤を抽
て。信長を尊敬する。食是主君の餘直。出たり。然まよ我君。誠ゆくし
て。例ごくかに恥辱を得ゆひ。其後とくてひづくんぞ。憤らざるべくんや。遠上
へ主君の許すじとくも小ほ一個安云城は逃投。南丸が頬をすくんだ。

霹靂の響き怒聲を。度し。繰斷をして。あめたり。先秀猶も壓鎮め汝
非義と攻企か。吾ハ解嘲。又脛を剗の。吾信長を懷ふこと。汝僕。吾を引
まで。汝意。等一々れば。遠理をりつて。察まし。君ヌ叛く。遂にひいて
ハ。孔。まさら。武王。と。離て。其人。と。て。誰。久。忘。か。く。ら。ん。や。財。貢。金
ら。者。と。く。も。昇殿を。ま。身。す。か。り。か。ん。ま。ら。ん。く。道。よ。肩。ひ。て。非。義。
う。と。炮。す。て。忠。義。は。激。底。て。堅。く。誠。り。け。ば。諸。士。是。非。義。く。退。ま。く。
然。る。る。右。大。臣。信。長。大。威。威。を。り。て。ス。畿。七。道。に。輝。ひ。天下。一。流。の。功。う。る。ね
と。慢。心。こ。く。ふ。長。じ。て。遠。よ。ハ。只。秀。吉。に。中。國。西。國。を。平。均。か。く。そ。次。よ。陸。奥。北。総
極。す。を。も。と。か。が。め。在。そ。而。備。中。よ。リ。相。馬。あ。り。大。軍。所。下。向。あ。る。よ。か。そ
ハ。西。國。平。均。遠。か。く。び。と。詮。伸。い。う。経。听。し。也。速。よ。中。國。(出。馬。を。下。と。旗。下。の
諸将)所。下。辭。ある。其。廻。帖。の。文。よ。曰。

比度備中國為後諾近日彼國可爲出馬依之先
隊之銘々先自我至彼地可任羽柴筑前守指圖
者也

天正十年五月廿一日

信長

筒井順慶

細川興一郎

池田勝三郎

中川瀬兵衛

高山右近

明智日向守

峰屋兵庫

堀久太郎

一書より頗達にて。懷怒よ甚る明智が臣家候。こそ
を従く大々賄う。昨日まで明智。羽柴と同格みて。各一方の心持かるに。
這次ふうびりて小弓の列み連称。秀吉が指揮さうりまく。言語に施す

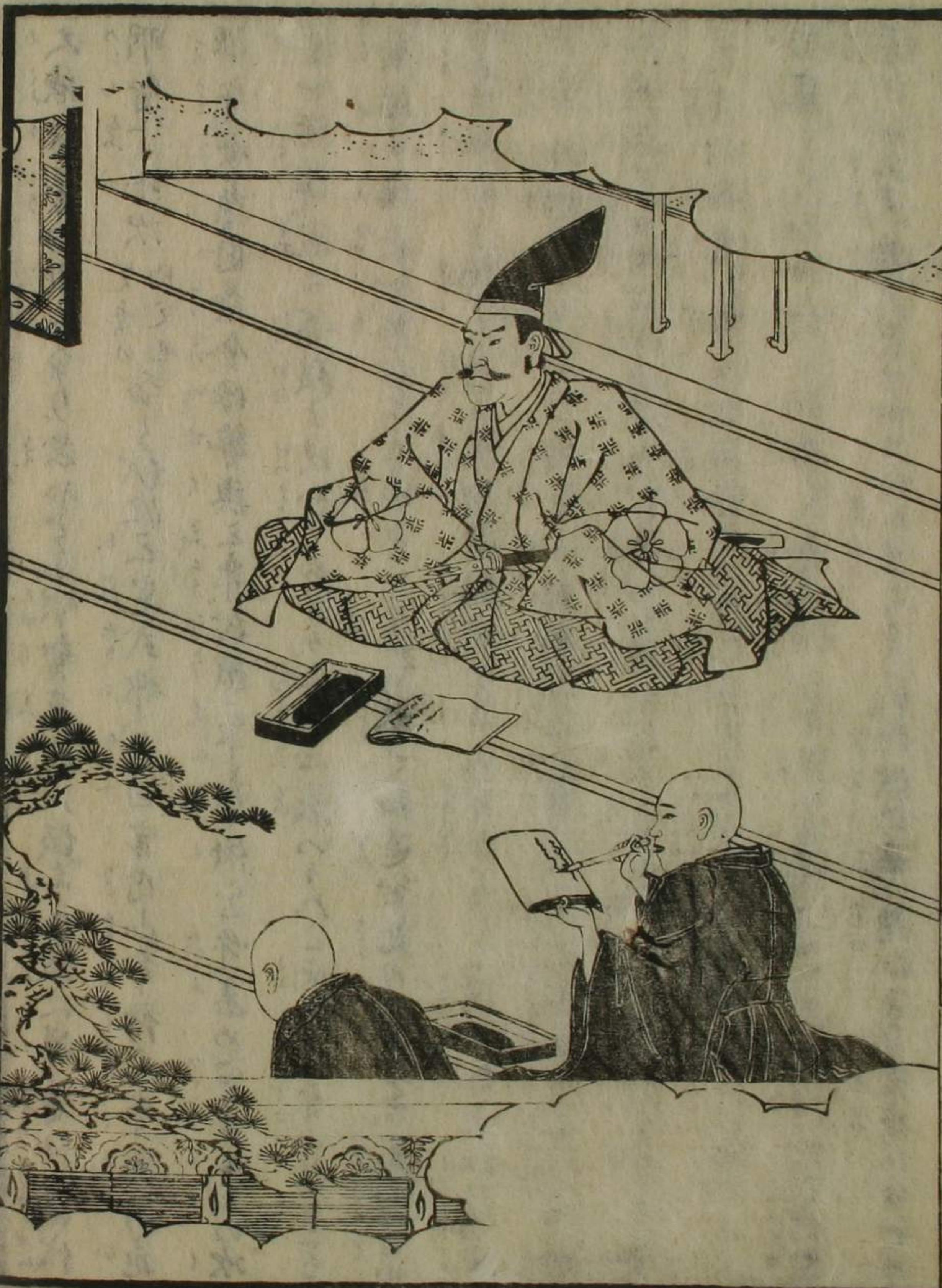
徇書なり。浩る恥辱を受かぐ。何ぞ出勢しよづんや。經今後意の百
遭りとも御出馬決して。用かりと聲を放ち。恐りけども。走秀等も
いかじかとろく。奉書を添そ廻したり。時よ蘭丸廻文の滞りゆく返事と看
て。頗て明智と不和あり。又。滿公へ言ふ。ちく。遠遭明智。背え秀。中
國加勢の命汚をどす。韓退せどして。御奉らせ。内に之の政企量かに。得と
御賢慮す。よどみと。言狀き。在大臣。猶え先秀。が事にかくい。若よれ
工支を盡せたり。寺本与想と至。其方の變づ方へ使ひ。那般くに言を
べし。と。命せを奉て。そのまゝ。明智が館へ到り。日向大野郎。又。君の館使と
よ。それ小事。あじと。主役竟争をひだら。かちゆど。役使と。遂に。奉
く。上度。情す。青木典教威儀を整へ。君命餘め。義にゆう。遠遭中國。小
か勢せられ。武功を抽んで。斬平ひ。か。出雲石見を燭ゑ。き。而後意すと。燭ゑ

次をありひの外かる君命は斯ハ誰有へと思ふり。我を忘れて聲と俯伏
心中の怒氣もたちまち頗折れ。後述よ頗観念せえま義直の先秀されば
従来君を恨みまわし。否やさんぞと思ひ。罪せ。の中に愧謝するもせ恩に
感して落涙をう。使節の青木密とん送。おの教ひへ然るもとがく。所勞はや
日向守殿の第一條の君命あり。足下北斉亡極まつぬ。渴とほ流吟しまづ。渴る不
の雲石二國ハ猶故地にて聖目にひ生。在往をき縚跡をらふ。楊る傾地の換
里にて龜山坂本の二ヶ城を。星返られよとの余ぞと吟て。あひ驚懼。失。増てそ
弓歛の滿面に。怒氣顯き。思えなる城元秀をく目注して。是の色を面
此出云び。標榜ふ御奉して。まき本興を歸して。勇士大よ睡う。俺们う接量
そる如く。龜山坂本の森城を。出雲石見ふむき換人よ。言語に絶たる料
理す。雲石二國ハ敵地。子一いゆ。主君の所。また宿らば。龜山坂本をめし。あ
)

けらき。君の所。身を置き地。是信長が我戦へ自殺をゆく。陰謀あり。
坐み。うち死。一かうんより。快くかび。起ゆ。と。諱湯。を。を。勧め。う。先秀
宴附黙極と。女房又て在。寝。寝。と一緒に。起。て。四方を視流。威儀を整。て。是
表。向。ひ。汝。御。他。言。ある。あと。か。れ。先。の。月。甲。か。や。く。信。長。う。け。く。拳。を。揚。我
頭をか。か。よ。ほ。か。の。道。を。恩。を。と。そ。幾。次。と。か。死。氣。序。を。想。ひ。憤。と。殺。さ
る。若。る。貌。題。を。蒙。う。う。へ。明。智。の。滅。亡。今。り。唯。今。時。至。る。あ。そ。是。非。か。々。れ。今。月
下。辭。ハ。信。長。父。上。洛。あ。り。と。聆。も。時。會。は。其。胸。報。い。ま。み。せ。ん。先。龟。山。一。輝
起。て。波。瀬。は。残。せ。一。股。筋。の。兵。衆。ふ。も。言。諱。ト。失。か。れ。す。れ。に。針。綱。を。續。ま。人。孫
て。隠。密。た。く。と。後。事。を。く。謀。合。せ。意。靜。に。安。ち。登。激。一。中。國。か。勢。大。出
陣。せ。ん。と。信。長。公。一。曉。を。乞。安。ち。の。城。を。退。出。う。る。が。山。の。築。み。來。る。時。耽。と。呵
顧。て。城。を。仰。曉。噫。今。日。ま。で。七。年。五。月。君。は。城。ふ。在。を。と。か。り。を。い。と。も。尊。く

視えりしも今こそ居間に通絶たまひが性のをとあう最見案へくつんゆる
あり。峰根の妻土城やと腰を被りて紙筆把出。而時に一首を歌を題く
むかうぬ人を何ともすべし。身をも持すべ多哉とかしまば
道を急ひて主従偕ふ。坂本の城に至歸り。此時巖蘭丸ハ信長公の前
に止寄れ言狀したてまつる。只今え秀が懸をひく。小謀叛をこかげえ。臣
所許を蒙らば自然ふえ秀を斬て弃せうさんふと思役て恩をえけるにぞ。
其ハ亦つらかるの名をと祝杯を。蘭丸抜く。只今明智光秀を登城せ。
顔色といひ今朝飯時を窺ひしよ。以て嘯く。猶を嘯む。かすり沈吟じ在と
くり持たる箸を取落したきど。霎時へ覚え代に愁う。斯まで心哉累
らきるは正しく天下の大東を思起めにひらさん。え秀從来君を假まゆ
らさうあと屢々われを。序圍断ちまへ。意をうべと。諫言はたら眼力へ

大波智秀の亂より。然やどよ。明智光秀ハ坂本の城に歸着也。城代
明智十一年次。光秀のあそびに三宅式部。奥田宮内山を附馬守。諫訪危
彈守。秋篠内藤少将。勢典三郎。村越三十郎。勘定を呼集め。宿又安土の次
守を承譲。既に保致と承む。然るが各の心底のうんこ間に。是すいは誰も
金借す。信長を怨むあと甚ざう。かねば。拳て叛逆を勧める。安雲とふ
るを詠うが像く。坊く逆意に凝固す。其ひこと溼りあひて。時小
光秀指揮しきる。明智左馬助。圓治右衛門。四天王。但馬守。並に指揮を
候。丹波の兵士を付す。急だ龜山の城に到り。龜本山城也。深波ふる安雲
よへ密に遠意を裏附せ。其餘の家下。山雲石見代。津須地。赴く。龜山と
被露して。晦日。うだりに悪く。龜山城へ軍勢を集め。まことに指揮を受ける者
を河口。玉天候。五月廿四日の三更をうち。丹波の國へ趣ひ。え秀の廿七日。



三番餘騎を引率して坂本の城をうち放ちを越えて都へ入らば西行
を南へ過るゝ。俄爾の釋迦堂の本より到り。此を諸士より告て以テ。我ハ神
志願ひて愛宕山へ賽し今宵ハ通夜して明朝丹波の國へ赴く爲され
バ汝供ひあまより途を急だ。疾急山へ奉参を以テ諸士より別きて日向守殿
肱の武士八九人を伴ひて愛宕山より攀登り。神木又額泣き丹精を樂にて屢
々行參し。倘若大望成就能むと云ハオ一を使けタゞと祚園を打ふ御の如く才一番
かきをえ齊まもく秋び賤之中國出勢行ひより。通夜まゆうせんとまよし
徇く西の房威徳院行祐が序文旅宿せられ。日朱寄りの道かれを面讀に連
袂と傳へられ。所も遠院司行祐ハ原來連秋の達人されば遠道不堪
候。經巴法橋昌叱法橋心前法師。兼如法師。大石院宥深極。此小候ヒ
て脇發一々其費句六。

時を今めぐるる五月哉
水よほかる庭れあり茶
毛薦る泡せざれを極とられて
風を度哉多にかくふ春
美もかや緋の墨や吹ゆん
うじく袖も吹りあけたる
うじ袖みやうるるみ袖して
すなれふう整色の松虫
秋をたゞ原き方にやれうう
尾上の物新々ぐれのを
五六十句あり。余の句は此ふ略を。舍中先秀の句十六頃あり。名残の

光秀
行祐
紹巳
宥源
昌叱
心前
行祐
光秀

△

卷之五

卷之二

のどか
色も香を辭むぞむろ花下

心前

執筆の秀秀の總至東六郎を湯行瀧
を従る故て東下野を率依七代の後胤みて子孫
家族を御先祖御分郡にて東源
を従ふといふ。因より東六郎を東野といふ非なり。亦一車の行瀧を強執と云ふ。強執ことを警からめ候人
を承通すして行瀧より是れも亦象徴の秋品を充慶と記せし。充秀がものかきども放壺と
斯セし。慈るやどよ望之女八旬再植現へ來候みし。黄金玲噐と多く寄附
にて。且吟友に至られく。ふ贈財を分與へ。何きの向うすく再會せんと辭謝
を若丹波に到りぬ。幾時に時へ今こそ奉ひにま國を。内とゆりへえき本姓土岐の正流かれ。苗
るを城役にて取ハ被り
まひでうのまわをもあまえ河と云と
まひでうのまわをもあまえ河と云と

天秀不妄宇野諫却害之屬龜山禰軍

晋比桓温枕を撫して嘆じて曰く。男子芳せ百世に流ると絶えどんべ。亦良を
萬年も遺さしよ。今統叢を自向るが立志ふ無べ。無からむ明智先秀。其
向丹別龜山の礎ふ焉しきるが。子息十名。清亮慶遠。頃。瘡瘍をさげ。熱氣
燒が如くひて。諭言ふどひ。人車を覺テ。先秀殊よ不便。ふありひ。強吸み
而。去清惟恒。ふ命じて。醫療をかほし。一様かくび。膏病すを。先秀に。女口
候田後。りの。一子。セ。吉清信澄の室。う。其次へ。細川義孝の。一子。与。一
郎忠興の室。う。其次へ。自然を。う。其大。九。才。の。女子。其次へ。嘉丸とよびて。八。才。う。
田郡外姻の住人。宇野豊後守久明と。つ。者。あり。山。本。保津。日。野。村。性質殊み
廉直にて。仁義の外。よ。通。を。や。う。ざ。る。高。さ。う。り。しが。先秀龜山に。帰。る。の。叙。
外姻。よ。使者。を。走。ら。を。對面。した。ふ。言。徒。を。急。る。ふ。豊後。守。を。た。こ。爲。より。腕。に
腫。痛。放。發。して。痛。若。も。な。り。と。據。ぐ。く。れ。ど。も。行。き。ん。ば。称。ふ。ま。と。と。伴。夫。さ。る。よ
あ。三。人。を。隠。居。へ。ひと。か。多く。行。着。を。れ。ば。先。秀。孰。ひ。迎。請。宴。を。設。け。て。醉。く

卷之五

卷之二

款待し。次ふ腕の腫と慰訪みてて后近士を遠づけ身を傍せ。底く兵
と言發るやう。今我命旦夕に過ぎず。是下これ皆帮助すや。いかゞと
問憑まで。そ後も餘を以て。威儀を整ひ。今當國の城を治め天下の名將と
る度が。いふる事のあきびとく。金を捨る道やむ。察するところ思はれ
謀反の岐企す。またかんと。お志を膏まく日向守恨の始終を詔諭に
ぞ。宇野熟と。船うき。其譽横の理を。傾地へ素是楊敗す。天皇憲
する裏もあり。赤穂も。秋も。往ふ。する者の憂情。平生は未去事と懷
さきへあづくべ。唯楊も。ぬ昔の義と恩ひあきらめ。秋毫も。信長公を恨
みゆか。日向殿の云々。自己が一個の勇智を。遠國等を平治と。恩を
うれども。其のからひある失慮あり。夫良才通する事。其身を殺して君に仕ふ
志まことれを賞める。ふ國郡をそと功を酬む。力を竭り。勞成盡く。其

報を全まび。功を呈し。事を積で其意を求む。とて。故人も。禍り。努力不
右え。城傾け。末世に。惡名を残し。あひ。恆の英智に似も。やう。所費謀
こそ。其身を。太守と。若と。断金の文を。とつとも。不交の通の。議ひと
と。憚色なく。條り。うるに。そ。え秀も。其理よ。服し。餘に。極理の。体措す。得
と深思し。あうと。と。と。嘗て。其徳の別を。う。了得の。え秀。宇野小説れ
て。而。勝。う。油の如。汗を。流し。大息。嘘。吹て。在る。と。う。明智。持。十郎
光景。茅刀と。ゆ。傍地ふ。拂へ。茶室。う。小砲を。提は。窺。出。え秀。が。前。に
投。刃。我今。宇野。が。有。を。の。返。言。つ。わ。ある。と。立。餘。せ。よ。深。す。る。の。謹。慎。の
意。一。個。に。も。せ。よ。密。事。を。隠。して。縁。も。さ。る。代。其。末。に。歸。させ。よ。尊。慮。の
意。決。か。と。言。を。代。光。秀。莞尔。と。知。く。よ。く。ろ。と。心。憶。られ。た。是。蹟。迹
見て。駿。す。提。と。の。向。み。嘗。て。先。と。て。脇。臣。に。み。人。伴。い。ひ。も。通。ひ。熟。た。る。面。壁。徑。



豊臣五郎卷之七
庸を厭ひて一顎に走きる諸ひうと強矢よりも疾く趨着て聲をも吸び一
撃ひにかうんとせうが渠も名士鄙怯の倅もむかへと素あらぬ慙して行過
る城。先達ゆうゆうを後ち。これえ秀が我をして。教をかうんともや。勝り
喃詩ゆく某許。誰もやあもと呼面。れ發るくわくが當言試ぬうぞ。吟え
さきよ。升も又孰そと。を寄せ宇野家様ひ。向もどもよども起るぞ。唱え
秀が謀叛に加擅せばその密謀は唱によろ。他へ漏えいやせんうと怖きて。殺
刺ひ来るをかうん。唱も武門よ生れ託す。非命ふ死もびく不縁ひ。然と
て汝も主命奉く。慎是勞せ功に。勅罰させんと謂ももそび。雙肩脱ぐ
脛剥斬きば孫十郎の嗟嘆。つ。首極落して立擣りを後ちが最初の始終
を告る。残聴て日向守彦源してぞ嘆じたる其の周を。織田右大内信長公の四月廿
九日を以て。赤蘭丸同房丸同力丸湯浅基助。全衆死入參候と三百餘人を埋

奉りまし。上洛ありて、田舎西の洞院。今へ至極通り押小路に移されたり。本能寺に
御旅館よりく。中國の羽柴へ御加勢を。備國の兵士へ御指揮りき。備赤中
將信忠郎ハ、承歎新み。弟毛利新助、菅原九左衛門、福島平左衛門、
又百餘人を率ひて、二条の城より入せり。信長公の御末子源三郎猪、長政へ附
従。又千尋、國勘セ、歎と惜す。之を餘務に。妙覺寺に寄宿せり。繙詠の參
向せ相等る。吁慮りかや信長公天下の家門よ。行は重紀清角
かづく。僅三百餘人にして。寺院小旅宿へ。御世とつとも危き小堵て、殘る
のみあつて。先禍蕭牆の内み。起る伏知りて。終の時、隠忍りて。終
始より。然わど小曉生。六月未の朔日。先秀端士を以て集む。門との名を連絡
て。渭バ明智左馬之助を後。因十番左衛門を親。徳才。同派石城つ先君妻木主
計正節賢。照子の夫。元秀が妻。先秀に面神
神正節賢。照子の夫。元秀が妻。先秀に面神

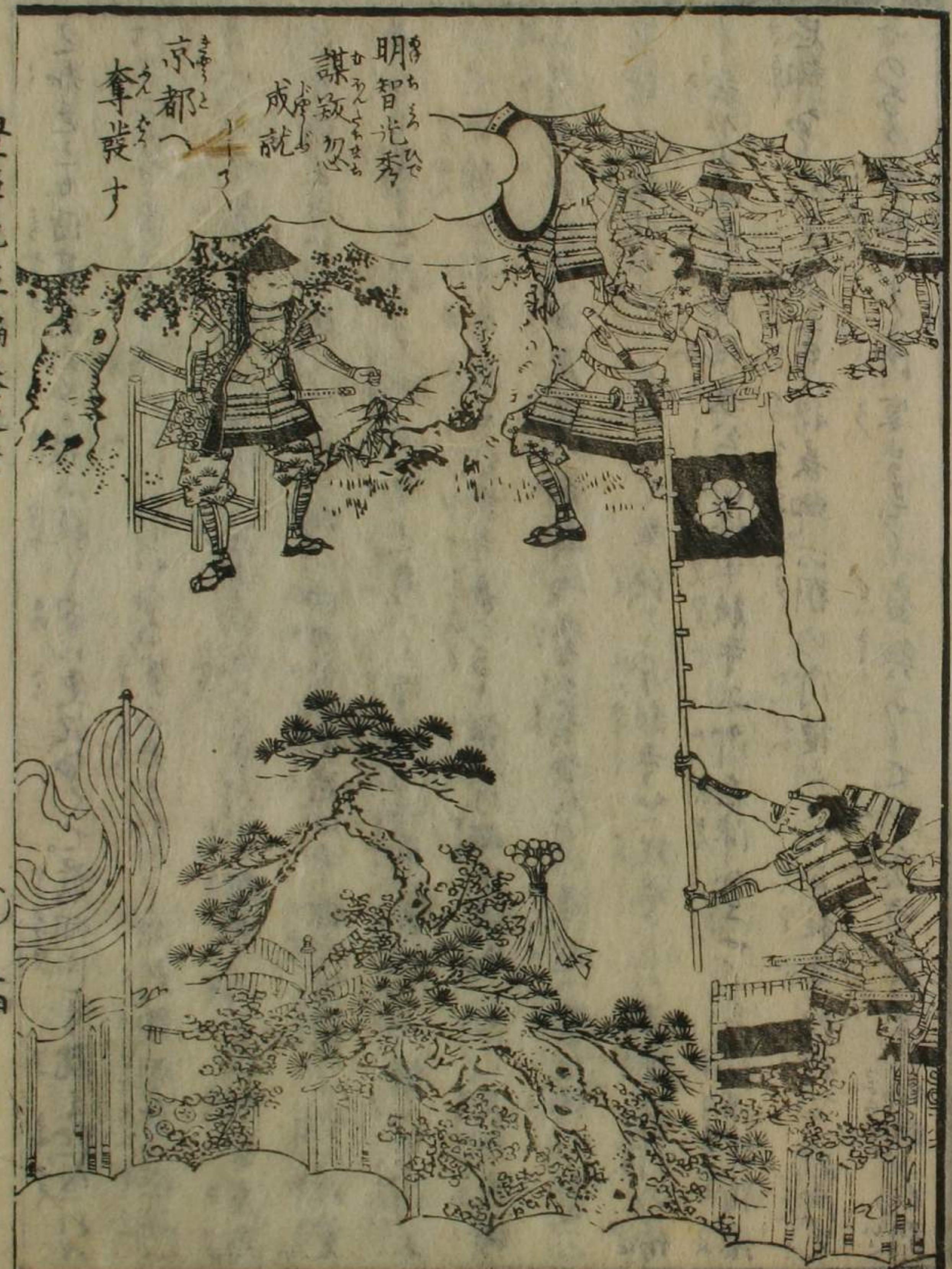
明石城を失ひ益明智孫十弟光宗。安後内弟分利三。祐是院妙隆と一族うり
其後光秀に歸り。天正天保馬守政孝。福知山の村上和泉守行重。並門源於今秀國
丹州美井庄を領し。元和馬守。池田城郡輝秀。二枝三左衛門兼顯。安田地名勝國次。比田常刀
奥田宮内一武。池田城郡輝秀。三枝三左衛門兼顯。安田地名勝國次。比田常刀
則家。進士六郎ち夫也。則尾不與。三左衛門。松田左衛門左衛門。政親。朱國源翁つ
勝定海を殺して。江丹友國の諸侯達列を懲して。度席江着。晦日光秀死
に歸ひ。乃弟がため小名達が一命をりて。楊る。あくまでも人間速よ。咱首を刎て。諭
快。禁教の根を断ゆ。と。言。殺さる。所列座の個々。息過らせて。緋色。遠眺明
智左馬助。席の上座。小あつける。廳中を傍と視流して。各々の事と費言甚
き。股不緩ひ。袖毛下さざれど。自苟も。時智氏の血脉よ。泣き。刺や唇を
り。涙目す。脣惡と。手被拂ざる。縁故あし。左馬助。小かいく。喰主令金に挂
えあり。念着で。言。殺されを。其餘とも。多年の恩顧。右義に。取たる個々
あれば。美に同般。又立命を。遣宵を。あと。と解たり。光秀。不承。收か。一
席に置わる。邊の中より。午王と取ぬ。先後。てある。代讀し。列座。確く。一
姓名を書記。一年生に潔て。饗宴信。一。紙盟を固く。結び。されば。光秀。荐び。承機
を軌座。中央に。居して。言へ。う。咱朝食。城田に仕官し。今へ到りて
十有七年。三十本まで。長臣の列。加する者。を。根道の。手。擲。それほど。せ
西國下向。か。勢たる。命を。下し。龜山城。年の。居城。を。奪除。咱。は。自滅。を。せん
ふ。あれ。不。像。て。体。こ。と。代。得。べ。大事。を。憶。起。し。あり。と。忍。る。急。と。面。相。に
頭。も。忍。氣。殺。無。と。言。殺。る。に。列。座。備。ね。も。憤。濟。を。あ。實。小。御。道。理。化。こ
と。ふ。う。そ。そ。や。貴。ゆ。と。勤。む。ふ。ぞ。隱。波。惟。恆。ふ。八。百。餘。人。を。漏。て。嫡。子。元。慶
と。看。病。み。ぐ。龜。山。の。城。小。而。め。置。中。國。義。向。の。御。兵。を。と。披。露。ひ。同。日。ゆ。
上。割。能。生。細。エ。タ。村。と。あ。な。う。に。推。出。し。て。水。色。に。桔。梗。の。紋。を。印。た。る。大。旗。を。轉。門

多く雙毛はさみの白紙の紙と櫻の馬標を樹。軍兵せりて前後中を二隊み
あたへ須伍あれ。一隊ハ明智左馬助え後と大將と。二隊大組るも村上和
泉守妻本と計頭三宅式那候。二千七百餘騎を遁て徑て大手の坂を
走り。桟の里を越て沙良木一隊の大將ハ明智源右衛門え忠昌。毛田行成
孟阿孫於分。伊勢与三郎。松田左衛門左衛門候のて千餘人と徒兵で至る村よ
り唐櫓越へく。松尾山田村を北通り。本陣をく追合さんと。備德入翁明
智日向守え秀へ同廿十郎存侍。妻本山城守同友之近源坊範綱也。安藤
内義久。奥田宮内。三枝三左衛門候。下刻に保津の驛より山中翻して水尾に出る。是へ先秀豫てより。密に仰
て設ける。尾崎ひ路を渡きて秋葉山の麓ある地藏院ふる陣せり。時に仰
明智が諸軍衆。うち内軍をもとく新主中國義向もるのみあらず。鑑

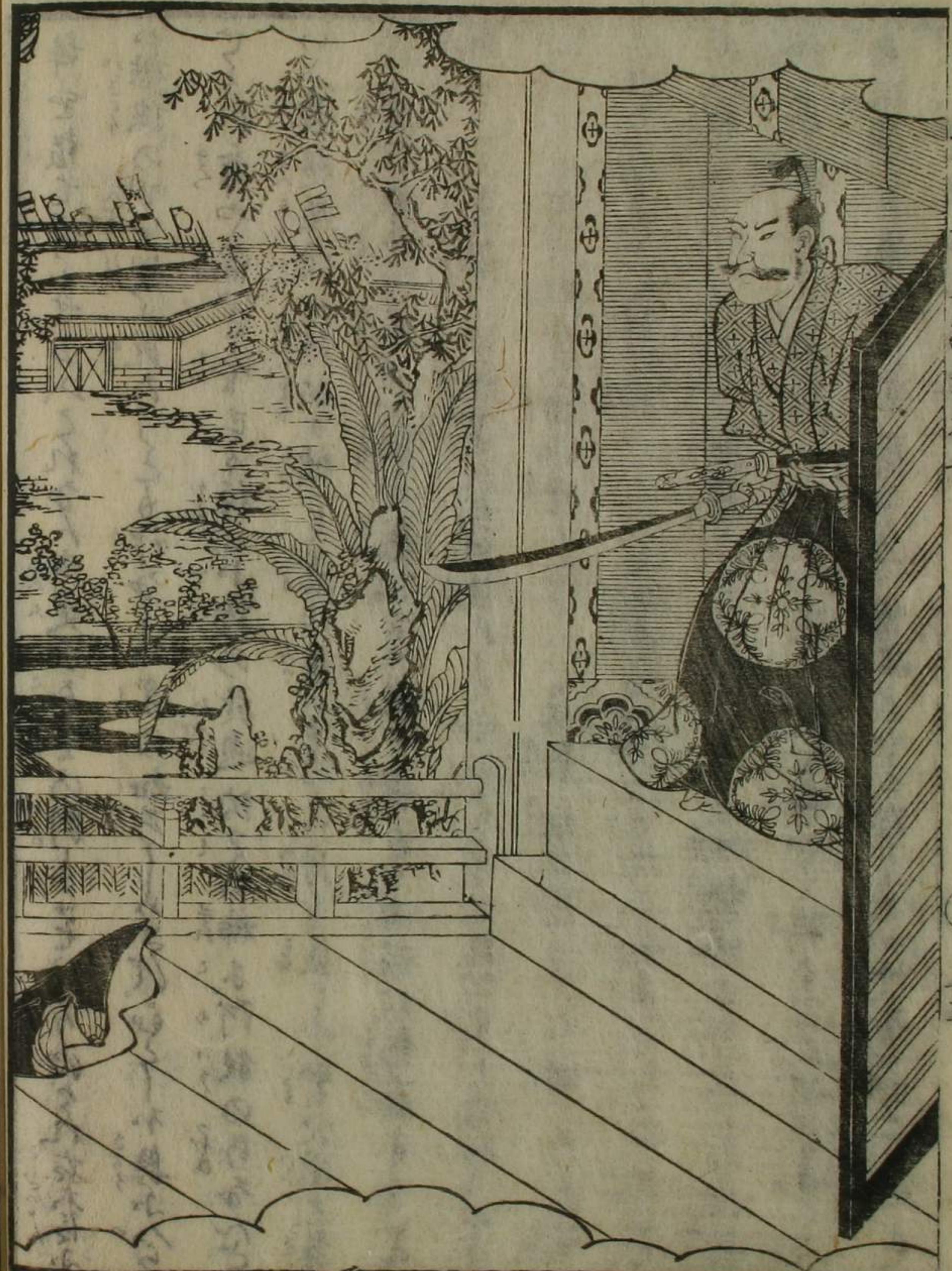
磨曉へこそ趣く。急きに。古今上流へと入。いかなるあゑと訊ねる。其隊の大
將偽て諸卒み若し。信長公の命せふより。曉程ハ不順されども。遠軍の洞
穴を京都小高い。而覽トたゞむの如く。都へ参入せらる。かくと言
つて京を諸軍勢。寔よ然こともありぬ。しと。何かく終夜人馬の行跡を
急ぐ。京都をくそれよ。

明智光秀謀叛圍本能寺。属諸士戦死

能仁滅に勝みて弑て宣く。暉憲の害ハ諸の善法を被ゆ。至要りつとも是を
るか。君臣共人も瞋に起。臣を忘くも憲小紀る。然ハ明智日向ちえ秀の氣
都駿天の地ふゆ。小糸附人馬に息を休せ。兵糧を喫し。戎具を縫へ。次
秀三河から諸隊に指揮ひ。欲合條本能と二条の城にあり。各懇々攻
撃。敵し。勢く躊躇へと最敵に觸れる程。此時始て總軍勢。謀叛の出軍す

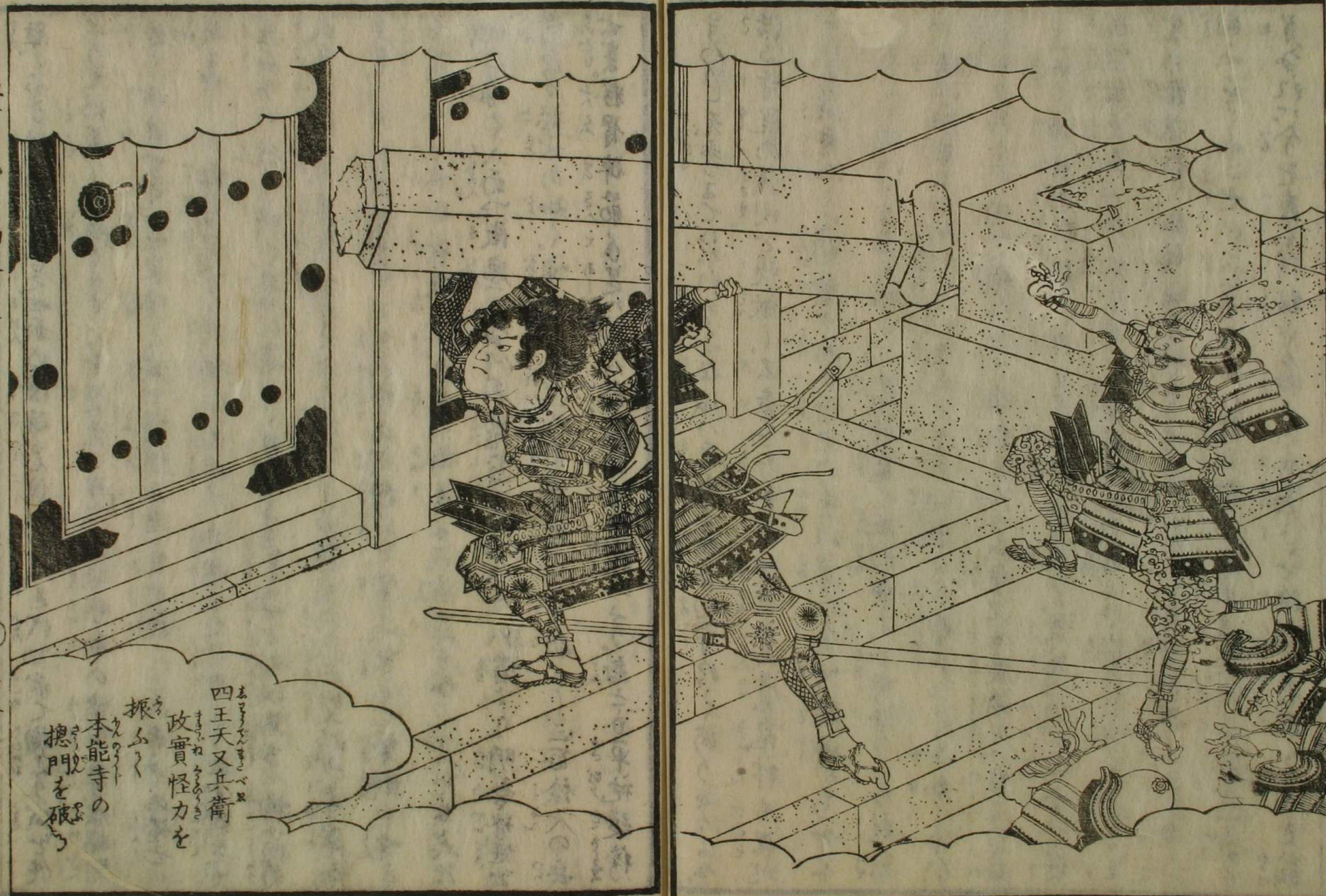


と知きとも。傍其崩あるが故ふ狭く東へ更に西くて。最侗じく號を起せば
六月二日ある。さゞご豫の夫ひもるかなる。宮の央とかびて刻頭。明智左馬
万七百有餘人。三隊小分機て。洛中に乱入をす。本教寺に向ひ。明智左馬
助先後三千七百餘人。二条の城へ。宿吉坐。先患四千餘人を三隊分て妙覺
寺とも圍ませたり。大將明智光秀ハ。三條極川の南の方に三千餘人を八列小
して本陣を安布。諸司代村井長つるが。極川の邸を縁園になし。其外太洋。
山科宇治。休見。淀。唐橋八瀬。鞍馬。鷺が峯。かんどの通途へ勢を領て。並百三
百八十の埋伏をす。然して軍強く本教寺を攻撃し。車破竹の像
し。然やぶる在大臣信長公へ。三條本教寺本門在陣をさせられ。嫡子牛將信
忠卿かくじゆ源三希。徳長卿。六羽の侍禮として。本教寺に投せられ。所父
子のあう最暎。トく所宴をもて盛興みて。甲板のまろまで。勧酬され。別
辞を報て歸をゑふ。これかん所父よ今生の別とこそはありに。それ本門ふ
ハ極狼の咽を覗ふ。拵ありとむ。祚ゆる方の知りしゆべ。むす不無ふ入ら
せられ。舞や儀と命令する役ふ。小野の於通。供えの稀ふ。阿能の局をんど
つふ。最絶極雅の陪姑。秋つぞ葉の塵ひのう。月も蓋て。や雲に隠す。春
一ば茎に放免毛色番を聞く。萎ひす。純々愛亨。曲洞に。勅盈をること
時久しく。生涯の酒宴に。せ代飲至と今宵。夕も。それを虫も。や初うめ
人。佗まで醉に耽ひ。ひ丑の央とおりふ。翠帳を寒み。そを娘にして。國
主ふ。蘭丸を。んづの個くハ。亞廬。よとのわは。夕も。や。おもて。や。おもて。眼を
何よ。駄。參。ひ。食に卧し。夕も。珊瑚を歎く。手枕。よ。若。魚。も。おもて。眼を
馬の足。あき尋常の軍勢。ふう。憲佐。一やと思し。夕も。修。准。あもと。眼を



聲の下蘭丸宮松愛平三個これに宿直はまつりぬと。言星れ、右大名。
阿吟松ノ夥の軍勢此地を當て迎ると覺ゆ。いと、偉く緯をばや
卑臨ふくやうづるぞ。執事から御作せよ。費一塵もあらばそんに。藏の
蘭丸お力推執主各續けといふ後、柄燭を照りて廊下を狂歩中堂をう
ち角の楹に氣走に届くも、材のあるなり。紹揚主被方を賄と視彌セ
を。進來る勢は二四千。提燈松明天地よつゞやき。内蔵百歩以外をくわ
正冠の旗を立てさせば。遠み薦てかに水色の白く候たる土岐接梗備を
明毛ヶ教へたき。告腸断へや。榜職や遠本能寺を。蘭丸が歿死を
き修羅場たりと櫛檻より跳で却り。正門地に奥門数へ狂役人をす
書院の懸向へ單くも大羽信長公。蘿刀提げ起出す。蘭丸敵を敵目と
る。殺セ。城の孰まゐるぞ。唯く御旅館を犯モ。殺城もと預て言狀をか

まくじ先秀みてひなれ。み小叛城へ先秀も。日向守にとめり。よる
浩る寺院の溪間を覗徹し。不意を打きて。信長が天魔鬼神も畏れ
きしき。此寺ふへて明智ヶ為。小現世の養れ。寢人とい。呼。榜職やちづる
や。敷ふへ通ら。まちもかし。一翁村墓て脛剥廻し。小時ゆうとも。織物
は。翁ひ城取多。壯士まと。九天までも响彌る。大音声ふくよ。かく
蘿刀うちもと。御度懸る。弓推執て。翁。かく。翁。翁。翁。翁。翁。翁。翁。
る。如く障紙画戸敲開。脚りて板席を。鳴し。直宿の門に起合ひ。達
城明智え。房。御前隊。陣く。擊投たる。防けや。穿けと。守も。十文
字の鎗推抜て。極頗近く。撃出る。翁と全く。寺宇の軍士。二百餘人
同ふ。をも。や。一世の大車。かりと。砲奴駆率ひ。よ。まで。從東恩義。威く
分かれ。今ぞ魚三代報。ど。時よ。兵基。と。推把て。芒鞋。と。間を。露。



脛も草は標揚赤既足。四面の練碌。又敵のね代を来て躰よう。喊を近
くて渦蒐へ。撲すくこそ見えよされ。遠响明智の諸軍勢。堞牆衝
進く推進せく。一吐ひ嘯と喊せ囂譟。小捷者を投んじて。奇中の備士ハ
投毛ド。鎧羅刀ゆく破拂ひ。鶴掃ひ。令晴まを防歿するにぞ。遙空も
左右あく。歎う得モ。羣ひ遠すく見えうる。又。毛毛馬也。但馬也。嫡子。南
又毛毛政實。享年積算て十九歳。ゆうど。大刀無雙也。か年軍ア
キモ。門の傍み標立セ。七尺许の戒壇石。掌ふ嗤して。擊倒。喙と
も。ひ。う長嗣。長撤て。門の廊つ櫛着き。鐵扉もあぐらめたまふ。た
搏の縁く八面つ微塵と。内と。花敷。あ並行看より。明智勢。偃を
断た。恐水の如く。喚呼で乳投る。肉ふ脣く。覺崩セ。三百餘人の兵
士。ま。筋骨碎筋。手足の物。金も精まで發す。多。手單絕縫。榜

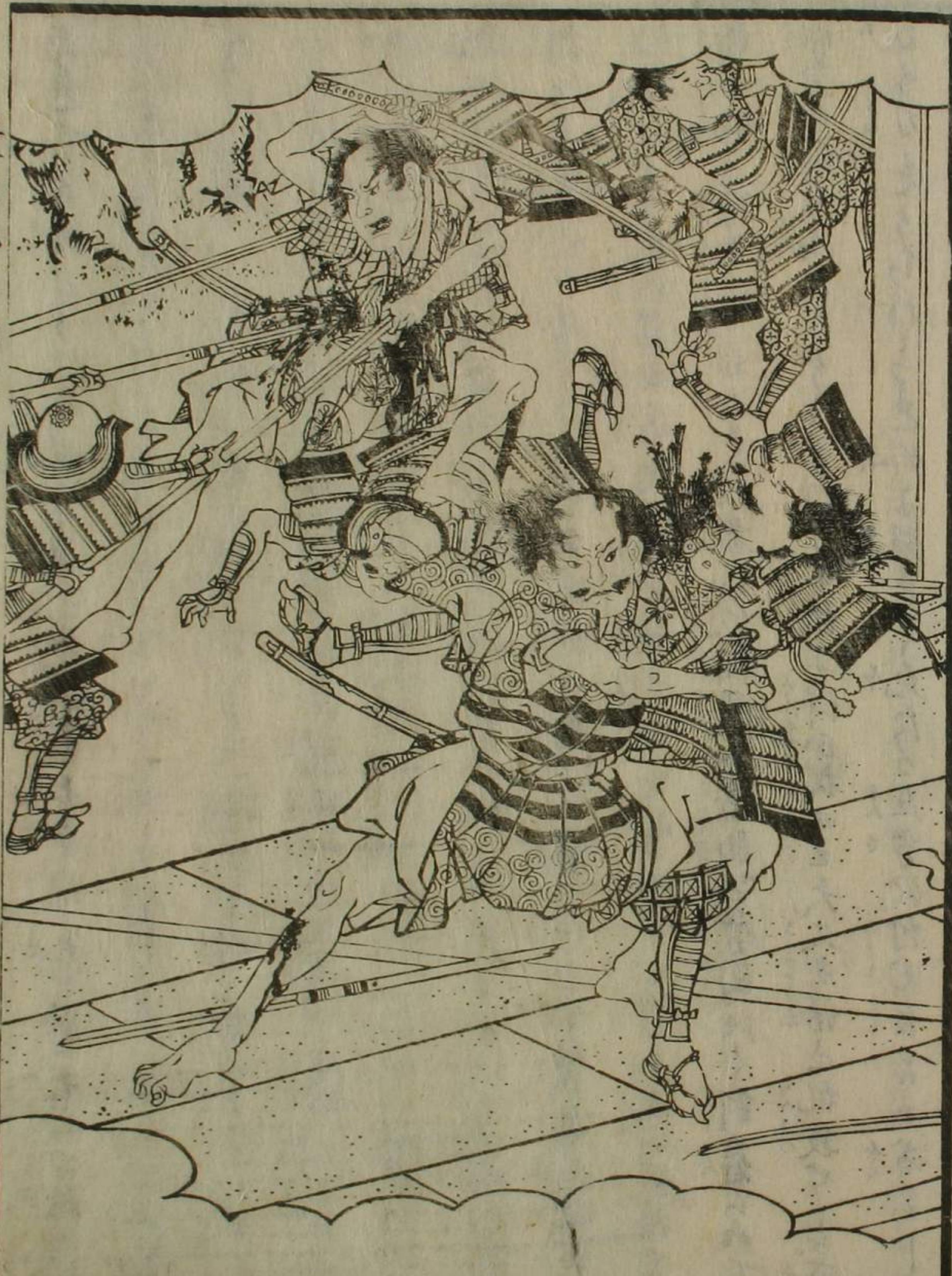
の主身へ能けきと端端うる車に向ひ意味して危急あらとひを乞ふ。然る成敵の只顧み右大臣を擊すとまわらんと遠方の虚室那方の隠門を防ぐて破ぬり延ねけ。鶴櫻をく進める城大將既と齧く魚鰐の縁ある白衫は。勝墨の轍を蹠滅し。庭の先東をも遙く解去。も本割りあらば謂せれく擅畢。近迫敵とすをつひじと。鄰窓の隙より射出しまく。矢を全く曉ゆる種を歎とすやも横脇。遠面那方の者か極め大將らふかと云ふ。秋毫をびとて明智の兵士一度ひ窮と絶する斬とつゝより信長公雙の眼を齧て殺被え秀ひづくみある。至る頃くる大延えんえん。西天罰ありひもせんと天地も裂るぞううの聲も。罵るをも言ひ盡勢。毛虎も速んで頑をやさる。猪龍も怖く、撫らむううのその威勢もも擎り。そん邊どへすれ十八段。躍歩一てぞ敵へそり。遠隊の大將明智光

後この不行せ那方より覗て蓬生自軍の举止うる信長公と荀とてまくも樓船とも駿たそりとひしふ。遙こくやある邊りへことをいふ。声を限り小白旗うち揮烈然うて指揮するあぞ。これよ歎くや魁隊の勇士萬葉甚九郎。本村治郎吉満。至河金右衛門。田口天又。又至海城三百餘人。鉢銚そろへて突投を。信長公は彼うに蓬生。海士面。八幡。夢様地。切生。星切生。手當経せふ前と捲へ。向當門當さへぐよ。羽响するよく射さふ不ふ。魁張の敵十務う。象暴外に射殲す。虎伴美つ枝もゆきりかる。猪木傳敏よ走竄せし。矢代猪助村田吉若。伴至席右衛門。同正林。井健光吉彦市。江六。新六。彦八。彦九。彦。禍善虎若。庵治五。藤蘭丸。力丸。房丸。坂門官松。小門愛平。金森義入。萬經庄七。狩野又九郎。今川経治。薄田ら。三郎。彦曾小八郎。修復度六。久。利。

龜松山因詔を附。柏原徳凡。祖父に縁丸。人據。経無体。五十餘人を力もて扇風を拂ふ。あまば。餘弟向とひくもあり。面必不肖。上端投。君等くわらう。の時。死をとづくも。是ハ墨代重恩の主君義元の所供。それを。惟う右義。お続。まくと。是。ハ。墨代重恩の主君義元の所。塵埃の縁。し。義と重人。おる。緯。磐石。お齊。し。緯。投。款。入。紀。ト。と。緒。を火ふ。し。鋸。脊。を。刪。り。汗。お。泥。ト。て。流。き。鮮。血。ハ。白。筋。を。紀。ふ。深。做。怒。声。ふ。混。む。を。刀。韻。ハ。輝。憲。の。石。上。城。千。社。方。奔。ま。る。が。像。く。激。然。と。して。戰。み。あ。い。ふ。も。先。代。務。物。ハ。明。智。孫。十郎。に。據。合。大。水。お。れ。と。殺。廟。を。遠。移。助。ひ。裏。川。文。代。の。経。人。を。り。しが。馬。羽。の。達。者。あ。り。た。る。や。近。東。大。臣。の。呪。お。意。と。遠。遣。の。供。奉。よ。か。ま。り。と。れ。ば。舊。代。の。士。よ。か。ら。と。称。ど。も。義。を。勵。し。ふ。す。る。勇。士。の。執。氣。一。足。も。あと。へ。退。づ。と。因。盡。骨。の。筋。よ。う。る。生。を。暴。る。

本能寺裡多く
織田家の
諸勇士戦死す

矢代庄助
伴太郎左門
村田吉吾
伴正林



あきて若狭もろひど。体を郎右衛門の村田吉吉に斬りけ。矢代刀絆の他
人にえり。我死むるよ及ばず。遙あくと呼ぶれども、耳ふも更に駄害
まで。鷦役くく孫十郎が。銛の糸を三尺をうり。拂斬ふ歎て唐へ先や棲狂人
と巨擘をむろけ。雄之頭と毛きくんで。摺合組合力争も。遠廻はを帝右
侍つゝ萬葉地甚九郎と我ひぐるが。矢代勝助を帮扶人と。萬葉地が斬投太刀
絆を右方へ抜却。紅纏は走り進て孫十郎が。頬より肩へうけ。八九寸かど彌
割たり。萬葉地も躊躇うり縁て走追。伴グ肩より腰の下まで。袈裟拭摸様
に撃ひ放た。矢代勝助遙聞ふまで。孫十郎を臂坐す距外へ。太刀取揚て
斬る胸よ。孫十郎もよきに芳らへ。相殴ふ勝助を臂面強く割着られて。
双方共よ彌ぞううち。それが前後よ伴正樹。元天又玄清と礼殺さへ。太
刀も刀をうちわらき。終よ殿生と死だる左方に。村田吉吉より芳らじ

もの。慘激突戦をこじて、明智が猛兵破竹の像く、百駆を制する
やどよ。其身も鎧の如くにありて、立踪み死んで、哀きことよりもあらざる
也。又手遠は又信長公の麾下、小倉ね美丸、湯浅甚助、中尾源吉郎の三
人へ坊舎よ職官を下す。遠郷動を聆すりも、鐘かけ被一顛ふ。章駕天の
像く死あり。君の安危おやげうされば。寺中一役うとくをとども、明智が
軍勢潮の如く、逐つ逐つの接合するやゑ坐りて、入るゝべく、睨み
丈將左馬助充優白綬うちうり。鞍頭よ突起騰る。人奇聲ひ指揮を
く、囁言功をた兵をさす。信長公に矢を射て、立るか烈しく、追て及せ合
せよ。遠郷甲よ在今をさの充満そともま寡の如く。増てや鐘かけ、素
秋食者何量の車をもあらず。遠乃へて、呼び声を、鐵圓錐の三士小倉湯浅
中尾源吉郎をもあらず。防幕をもあらず。貪え

たり。遠慮の主將ハ明智左馬助を續するぞ。近慮て刺殺三人。この勇猛も
しらに十倍して。獅子腰を顯し。轟躍也。二人六臂の雙刀を振り。立派自負
て。傍そ蒐る城。左馬助が縱去。六十餘人を捕獲して。前援を右より
推進。獨特。越後に楊よと擲起る城。東西の軍ともかきこむ。而え。ふ持て。轟
きの首へ放落。四つみづ。よび越の猿くじ。轟躍。左矢ふ搭せ。六十七騎が一度
に。向く。鶴出鎌の鎧矢を。夏哩と斬落。突と。まくと。で。兵十旦。行。勝と
を。ふ砍倒と。歌と。音を。逃れ。追す。敵うべ。鳥低縱横。さうひ
ゆく。當るふ信せ。そ撃。やどふ。瞬たる。疎も。すくて。十七八騎を。盡ぬ
ふ。血波たゞ。斬連林。う。歌を。これ。懼怖也。つ。行。不。歌。も。自。軍
よ。や。と。憶。忙。そ。机。動。も。る。を。左。馬。助。も。ふ。恐。り。甚浦。安田。は。在。今。や。右。川。山
と。そ。あ。く。そ。ま。ま。だ。ら。く。ち。と。り。
本出合て。使。婆。奴。家。を。敵。止。よ。と。頻。ふ。掲。揮。と。う。一。く。り。や。ふ。二。五。回。失。と。峰



馬融傳

十一

様にて毛豹庵熟此暴魯が像し。湯殿一盃もる際。烟火を殺して發ひし。湯殿も小倉も腕疲き。數ヶ所よ涼爽せ重うはもうお刀も鎌りて自由を得矣。そこ後山本。右門が手強く禍投鎌の烈勢。うしろ木へまく其浦大内。毛一喝叫んで禍徹き。鎌の鋒比鎌くて。湯殿が胴を横うなふ。叢毛の外を八九寸餘りへ小倉が腰脛へ盍。烟たゞせぐ。糊投たり。甚助へこれふた目うち。毛。毛く。縫筋へ死う。されども。松葉丸へ猶怯まず。鎌の鋒尖をう手に廻る。背方に破折て。箕浦が面上へ。擲着毛へ。目的へ外毛。肩間ふ中室。鮮血眼と瞑す。なる残一更返して。松葉丸。箕浦を別人と揚る太刀。其隊へ遙く背方ある。山中。古川。一突互鎌。那隊へ速くて。小倉が肩腰。禍貫ぬれて。苦つゝ聲のこすて死う。遠三勇士殿をうち。門弟よ誰う遮ふ。毛。咱他先を争す。一度お寺内へ礼投る。遠响森蘭丸へ一軍し。

て久臣の。齊傍小息嘘在たゞしき。追多寺内へ繁繁殺せりんて。十文字の捨せ
鈍意に掻け。雷喝一叫。糊ぬきば。蹠は横ひく房丸力丸。全くぐるを心當ふ
捨。瞬をせまく蘭丸が左右ふ並んで脇を枝け。陽叫源て。鞍小モ其蘭丸城
撃をかく。右久臣の摘揮小躊ひ。金衆義入薄田興み事。大掾弥惣同又
弟。三尾平助。魚住庄七。小川愛平。落合小八郎。山田孫吉郎。小川源次郎
歟。肩解腕小勞るといつども。方僅蘭丸に懸ますれ。流ちて鮮血を拭ひ。及
たる。矛力を端轡し。掾より下へ疏廊。靈鳳の沙を卷う。縁く。落び。駒を
追跡。明智方にも四王天祖馬守。同又去湯。私本八之塙村上和泉。至
木主計頭。二寳武部。追士六郎を支。を報う。被率難丈よむるまく。轄とお
じ。改換人と喰叫人と接所行ハ。隣の岩根とうの波の邊と遇へ。通へ
まくうち進む。もううき。蘭丸はとく私周。而て。弱き自方を。都。挾出。強

き自勢を懲りて追退出後もぐるに駒警を魚と摂す小齊。集散離合續ふるまや。猿猴が東と西と獨り同く。勇と弱とのあくびを竭して只顧人情の所為をもぐらも窮ろぐんと遁つ逐つて我を。空そ又を清張と視て原末恨の濱き蘭丸。息の根止ひぐ。かく毎日かと。鎧甲斜て弛懈ぬ。蹴飛らんとするところ筋を力丸をもへとせましと大刀を振。又を済み腰で裏あと。耳小物うる。童倫面と薩雷の猿く一喝叫び。突出鎗の轟電より。痼疾ううくる猛勢よ。子爵の力丸交争難て危く見えゆき。椎骨房丸足を駿せてよく薦そと。筋ふ喰ひて穿薨る。然ども強猛魄力の。又を清政實ますく激叫て両側を射殺す捨方歎しく。右突左敵小隙間す。勇と奮ふく。力丸をうちと殺矣と。御圓ひ。それと崩るより房丸。衣服ふかつて横突す。と。叔本村と受取て。終か房丸を擊撃す。那方みへ叢蘭丸。二個は身よ

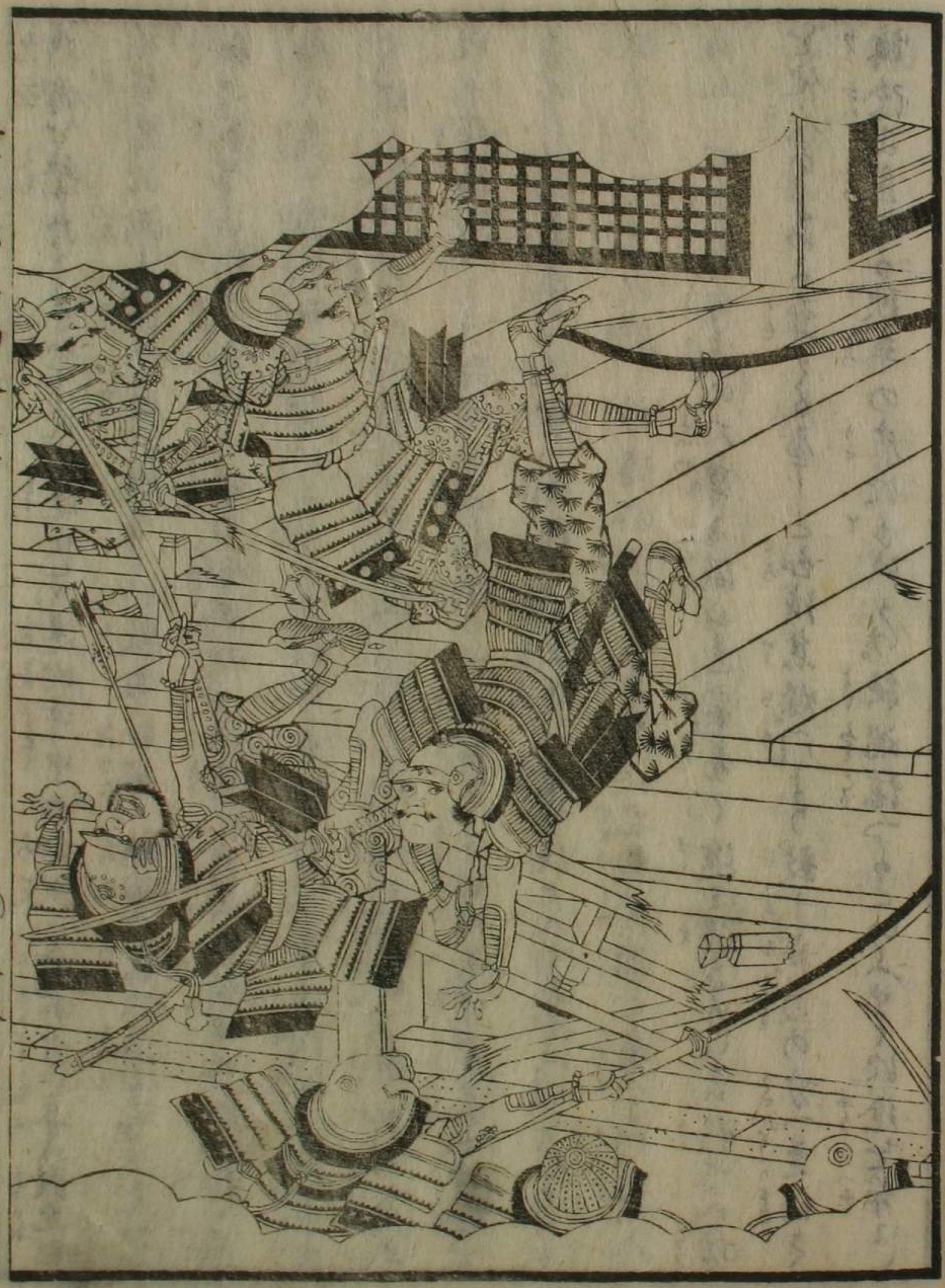
のあくろ。我死むるを傍観して。信長の所為をもぐらひ。追來る敵と頑伏。難解。宴時へ主君を安んじまゆき。遠隊小城田家の勇士達。張サく我死して。存命さるハ蘭丸と。娘め十世五人びわら。難兵三十餘人。勇残守護して在とつとも。渾身懶て朱は深。流るゝ血隨に歛にて。渴を凌ぐ。咽を潤す不見へ。發に海底ふありとつ。阿修羅の街。ふ髪髪なり。

右大臣所生害蘭丸我死属安田鑑功

大將ふみ才十過あり。其又才と。備る。の。智仁信勇忠是あり。十過と。備る。の。才ふ。ありて。丸を殺する者。二小忍。ひつて。乞達する。これ貪て。剣絞好む。の。四ふに。あきこも。殺。も。不。忍。び。ざる。が。の。又。智。ありて。怪れざる者。六小謀。暗。ありて。意。緩。そ。り。七。剣。絞。ひ。て。自。ら。用。ゆ。る。そ。の。八ふ。ハ。懶。惰。ふ。して。他。ふ。任。そ。の。九。ふ。自。己。が。被。を。持。て。他。人。を。用。ひ。ざ。る。者。十。じ

八萬位小矜て至極を過む者也。又の過失ある胸ハ將たる道と全
ての緒あらず。然不ど本林寺に至。先秀が勇臣者也。或幸ふて、咱
こそ大將信長を歎してまづんとまろかふを。木村治部右衛門。村井又
吉満。信長公を那方に育て。一文字に追ふく。大臣遠胸かや候りて。防
矢口しておもぞ。村井がふ縫ひ追むと御免し。嘆と聲うけ強きもく。
放ちゆを熟練の巨業。怒をうりふ又云。嫌が獨へ既源に放失と立。まことに
も堪らで様頗より。勢遂勝に疊りうる。おもひは治部右衛門
餘を掌返て突蒐る。信長公憤怒ふ堪也。人の眼に糞と睨着無礼ある
へ遠去わらず。声聲烈しくおこる。腰面撲當と抵立を脚蹠尙
らであまよ同ト。様より下へ倒じ落たり。木村治部右衛門丹羽東郡山木村
の者也。しき軍敵にて凌被郷へ送り
義生され。と弓すくある。をええも。ミカウ。く。其
痕治せをしく元もとつゝ。那の如く若乃傳ふ。身残拠て若残せ。く。既

右大臣の
猛 憤弓矢を
執て村井木村を
激殺す



序首と擊たゞまつらんと追ひ。遠附寺中の合戦ハ御所方七分ハ敗死して。有様に瀕き法の庭。時かくは敷布紅丹ハ神田の秋代落葉かゝる。檢歎の名ある紅蓮子似川。冰の歎満たる小室ハ美譽の最中あれ。孰氣魄の蒸が像く。ち力風の外ハ吹をせば。殺氣凜然なる。御所方の勇士も。楊虎君二尺九寸の大ち刀を振り。厨口より跑出。群る追兵を。既み候ふ。後唐流々と破闖き。勇を振つて。備戰を。安田也。其浦と齊一。門内へ入者。手こし。漏ふ後堂へ。拵投て。右大匠に。餘を洗ふ。かくへばこれよりも。試す。凶一文字に。遊三河。備赤山。赤山。二度清門。安田。其浦。と齊一。門内へ入らんとせり。自方の大勢。太陽ら。言易く。追三得。ざりし。射て。功と他人の。よ。奪うる。互に。乞成焦燥門。より。數十歩。もの方へ。走り。く。博陸。よ。立たる。狹車の肩に。よ。減うた。軸端堪。と。手に。餘を。筋は

嗚嗟と。身と。運うせて。も。懐。飄ふと。眺は被たる。縫。系新した。小桜威。大袖小袖。赤城の草摺。翻ふと。翻摺。に。蝶の落花。み。花。ふ。像く。ちの。落葉。に。迷ふ。似て。生死。と。争ふ。戰場。小も。叶。轂。く。じ。と。亥賛の。声。の。小雲。時止。ぞ。り。たる。又。子。山。半。ハ。擇。よ。離却。こ。き。も。全。く。信長公。に。通合。さん。と。拵投。又。雙進。隻退。虚。實。に。臂面。を。撃。ひ。ば。丁。と。底。止。し。横。よ。蘿。き。ひ。離。そ。重。可。化。よ。時。轉。せ。く。公。剣。勇。立。た。る。虎。毛丸。も。數。刻。の。軍。小。身。も。怪。累。疲。弱。角。ね。き。ば。追。逃。そ。も。や。自。由。か。く。べ。剣。や。山。半。清。修。か。檢。氣。の。勇。に。拂。起。ら。き。通。よ。懲。も。で。擊。ま。ぐ。る。遠。胸。獨。を。信。長。公。ハ。間。隔。障。も。を。立。せ。ゆ。い。齊。腕。強。く。う。精。烈。く。立。候。至。檢。至。檢。次。射。ひ。不。安。田。作。を。傳。餘。う。揚。之。居。目。的。て。孔。來。る。代。進。付。す。と。信。長。公。懶。地。射。す。と。基。鎧。を。取。去。落。落。而。て。

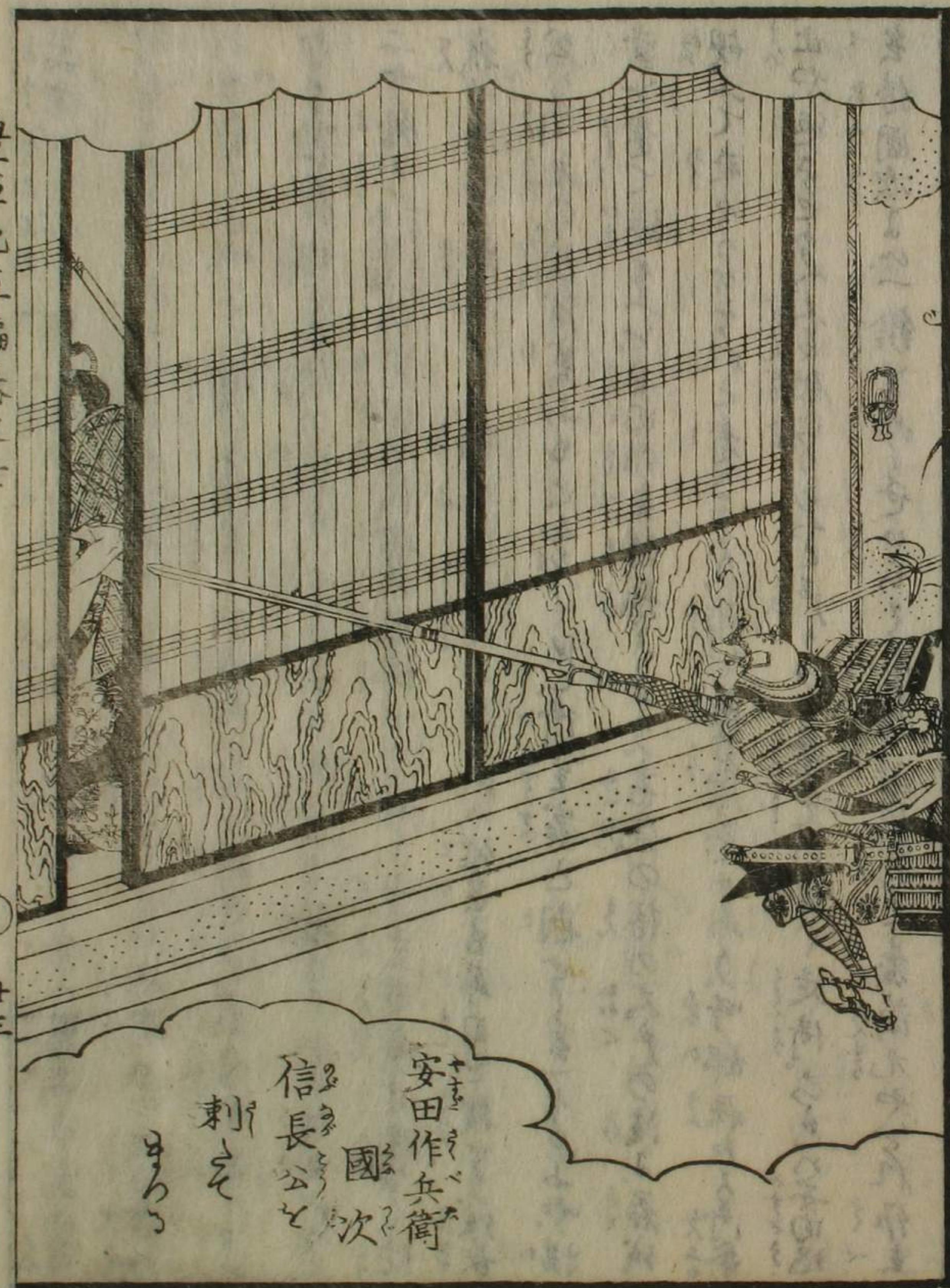
捨拋弃、遠ぞ一躍ふ文。雷神の像く砲朱るを。大抵遠くも亞の矢城。
弦韻烈しく放ち更にその御威の速く砲朱るを。大抵遠くも亞の矢城。
大發多をうに別波と御強氣の作を當きものとせば抜く拋弃猶も
進むと、三の矢祀く信長公波絆と門セキと見えくが、天魔も歎く在る。
弓の齊云連坐又盡りて。弦歎歌は哉なれば矢拋弃大奇に。確り
ある接客ををして命せらる胸營若處八回後九席微の十数人必死と
角く妄図食止上へ參じと我ふを机懸掛過門殿より十字記
の衣被たる三十枚の女房。長崎ね出教らるる紙。亦愉快氣に齎し
侍聞する姫川の舞女。も頗る風情。武家の愛する女房が意嗜こ
そ神妙かれ。汝做ももや是まであり。此遠協を過ぎ玉よ早くここ宣ひ
汝。彼女戦を拠拵す。従弟百菴と射身ひ。而疲勞も嘗て見えず。と
進る歎を棚依く。餘は阿修羅王の暴さうが如く。觀てそちつるも懼ろく
され。今遠ひして入居敷へ捨て是け。女房は世小元人の躰矣らる。阿修羅の
局とつみ嫁婦。小妻胸汗傍に跪坐在る。何思ひ久身を返して後
の廊へ走投す。胸より後遠と所定。宗仁こと呪々杵准くと塵て
長若川宗仁御前をく。踞く。信長公御御紳。今信長が最初
よ及ひて女房を体たりと。せとの傍を受る。持憾。汝も急き女房
家を遁す。遠地を快落よ。速刻せよみ龍虎ふ隨ひ。遠限那闍波瀬
在る。女房達を伴道すて背門より遁出。其が中小河内局。安
性かがうも勇士ふ筋る大膽みて。遠期に及びつまひ。も久と有捨
とをまづり。遠地を遙き出奔きうと。悍しく擣禪破け。女房の聲と
白綾もく。二重もく。小鬟糸つを。腰六綾力。又ハ清水様の銘長蘿

142 143
144 145
146 147
148 149
150 151
152 153
154 155
156 157
158 159
160 161
162 163
163 164
164 165
165 166
166 167
167 168
168 169
169 170
170 171
171 172
172 173
173 174
174 175
175 176
176 177
177 178
178 179
179 180
180 181
181 182
182 183
183 184
184 185
185 186
186 187
187 188
188 189
189 190
190 191
191 192
192 193
193 194
194 195
195 196
196 197
197 198
198 199
199 200
200 201
201 202
202 203
203 204
204 205
205 206
206 207
207 208
208 209
209 210
210 211
211 212
212 213
213 214
214 215
215 216
216 217
217 218
218 219
219 220
220 221
221 222
222 223
223 224
224 225
225 226
226 227
227 228
228 229
229 230
230 231
231 232
232 233
233 234
234 235
235 236
236 237
237 238
238 239
239 240
240 241
241 242
242 243
243 244
244 245
245 246
246 247
247 248
248 249
249 250
250 251
251 252
252 253
253 254
254 255
255 256
256 257
257 258
258 259
259 260
260 261
261 262
262 263
263 264
264 265
265 266
266 267
267 268
268 269
269 270
270 271
271 272
272 273
273 274
274 275
275 276
276 277
277 278
278 279
279 280
280 281
281 282
282 283
283 284
284 285
285 286
286 287
287 288
288 289
289 290
290 291
291 292
292 293
293 294
294 295
295 296
296 297
297 298
298 299
299 300
300 301
301 302
302 303
303 304
304 305
305 306
306 307
307 308
308 309
309 310
310 311
311 312
312 313
313 314
314 315
315 316
316 317
317 318
318 319
319 320
320 321
321 322
322 323
323 324
324 325
325 326
326 327
327 328
328 329
329 330
330 331
331 332
332 333
333 334
334 335
335 336
336 337
337 338
338 339
339 340
340 341
341 342
342 343
343 344
344 345
345 346
346 347
347 348
348 349
349 350
350 351
351 352
352 353
353 354
354 355
355 356
356 357
357 358
358 359
359 360
360 361
361 362
362 363
363 364
364 365
365 366
366 367
367 368
368 369
369 370
370 371
371 372
372 373
373 374
374 375
375 376
376 377
377 378
378 379
379 380
380 381
381 382
382 383
383 384
384 385
385 386
386 387
387 388
388 389
389 390
390 391
391 392
392 393
393 394
394 395
395 396
396 397
397 398
398 399
399 400
400 401
401 402
402 403
403 404
404 405
405 406
406 407
407 408
408 409
409 410
410 411
411 412
412 413
413 414
414 415
415 416
416 417
417 418
418 419
419 420
420 421
421 422
422 423
423 424
424 425
425 426
426 427
427 428
428 429
429 430
430 431
431 432
432 433
433 434
434 435
435 436
436 437
437 438
438 439
439 440
440 441
441 442
442 443
443 444
444 445
445 446
446 447
447 448
448 449
449 450
450 451
451 452
452 453
453 454
454 455
455 456
456 457
457 458
458 459
459 460
460 461
461 462
462 463
463 464
464 465
465 466
466 467
467 468
468 469
469 470
470 471
471 472
472 473
473 474
474 475
475 476
476 477
477 478
478 479
479 480
480 481
481 482
482 483
483 484
484 485
485 486
486 487
487 488
488 489
489 490
490 491
491 492
492 493
493 494
494 495
495 496
496 497
497 498
498 499
499 500
500 501
501 502
502 503
503 504
504 505
505 506
506 507
507 508
508 509
509 510
510 511
511 512
512 513
513 514
514 515
515 516
516 517
517 518
518 519
519 520
520 521
521 522
522 523
523 524
524 525
525 526
526 527
527 528
528 529
529 530
530 531
531 532
532 533
533 534
534 535
535 536
536 537
537 538
538 539
539 540
540 541
541 542
542 543
543 544
544 545
545 546
546 547
547 548
548 549
549 550
550 551
551 552
552 553
553 554
554 555
555 556
556 557
557 558
558 559
559 560
560 561
561 562
562 563
563 564
564 565
565 566
566 567
567 568
568 569
569 570
570 571
571 572
572 573
573 574
574 575
575 576
576 577
577 578
578 579
579 580
580 581
581 582
582 583
583 584
584 585
585 586
586 587
587 588
588 589
589 590
590 591
591 592
592 593
593 594
594 595
595 596
596 597
597 598
598 599
599 600
600 601
601 602
602 603
603 604
604 605
605 606
606 607
607 608
608 609
609 610
610 611
611 612
612 613
613 614
614 615
615 616
616 617
617 618
618 619
619 620
620 621
621 622
622 623
623 624
624 625
625 626
626 627
627 628
628 629
629 630
630 631
631 632
632 633
633 634
634 635
635 636
636 637
637 638
638 639
639 640
640 641
641 642
642 643
643 644
644 645
645 646
646 647
647 648
648 649
649 650
650 651
651 652
652 653
653 654
654 655
655 656
656 657
657 658
658 659
659 660
660 661
661 662
662 663
663 664
664 665
665 666
666 667
667 668
668 669
669 670
670 671
671 672
672 673
673 674
674 675
675 676
676 677
677 678
678 679
679 680
680 681
681 682
682 683
683 684
684 685
685 686
686 687
687 688
688 689
689 690
690 691
691 692
692 693
693 694
694 695
695 696
696 697
697 698
698 699
699 700
700 701
701 702
702 703
703 704
704 705
705 706
706 707
707 708
708 709
709 710
710 711
711 712
712 713
713 714
714 715
715 716
716 717
717 718
718 719
719 720
720 721
721 722
722 723
723 724
724 725
725 726
726 727
727 728
728 729
729 730
730 731
731 732
732 733
733 734
734 735
735 736
736 737
737 738
738 739
739 740
740 741
741 742
742 743
743 744
744 745
745 746
746 747
747 748
748 749
749 750
750 751
751 752
752 753
753 754
754 755
755 756
756 757
757 758
758 759
759 760
760 761
761 762
762 763
763 764
764 765
765 766
766 767
767 768
768 769
769 770
770 771
771 772
772 773
773 774
774 775
775 776
776 777
777 778
778 779
779 780
780 781
781 782
782 783
783 784
784 785
785 786
786 787
787 788
788 789
789 790
790 791
791 792
792 793
793 794
794 795
795 796
796 797
797 798
798 799
799 800
800 801
801 802
802 803
803 804
804 805
805 806
806 807
807 808
808 809
809 810
810 811
811 812
812 813
813 814
814 815
815 816
816 817
817 818
818 819
819 820
820 821
821 822
822 823
823 824
824 825
825 826
826 827
827 828
828 829
829 830
830 831
831 832
832 833
833 834
834 835
835 836
836 837
837 838
838 839
839 840
840 841
841 842
842 843
843 844
844 845
845 846
846 847
847 848
848 849
849 850
850 851
851 852
852 853
853 854
854 855
855 856
856 857
857 858
858 859
859 860
860 861
861 862
862 863
863 864
864 865
865 866
866 867
867 868
868 869
869 870
870 871
871 872
872 873
873 874
874 875
875 876
876 877
877 878
878 879
879 880
880 881
881 882
882 883
883 884
884 885
885 886
886 887
887 888
888 889
889 890
890 891
891 892
892 893
893 894
894 895
895 896
896 897
897 898
898 899
899 900
900 901
901 902
902 903
903 904
904 905
905 906
906 907
907 908
908 909
909 910
910 911
911 912
912 913
913 914
914 915
915 916
916 917
917 918
918 919
919 920
920 921
921 922
922 923
923 924
924 925
925 926



刀函當に構へ洞庭より逃り出地小演戻を諂諭く。縱横を碍ふ難廻る。
船脇の毛士歎あ生伐看て。この賛ら一た女武者。响鼓を提人と難蒐る
と。敗の紋羅ると齊々見色。破竹。旋風。壠骨車。大波。小湊。激矣。瀾極
作し難落し。難力の刃。勁くだけ。肩驚腕騰爆もぶる。當る代よりと
掉きなれど。瞬瞬隙に十四丈勝。天足地頭。手足勢に癡
はけなれば。當の歌多めらの種て。門外へ観と難蒐。難也。猶も進て烈哉
を。渋るところに山本三左衛つ秀忠。信長公を那様ふ看あひ嬉くや。唄
てに擊きぬせんと電の如く乞引を。遣まことのと阿能の局。匹夫面
待と呼蒐つも。韓竹破ふ難看れ。飄然と避て落木る絶頭と。鑑ふて
壓へ着入く。利脚拳ると見えたりしが。脣裏地葉せ。泡僵を成。阿能
も驟さび短刀脱制。度の當をと。素手り身弛きこなす。

四五尺も。遊揚れば。阿能ハ傍人を見る腕。手。剣。力の用たるふや。空地を
躊躇て。傍見に倒もと。うろと山本も。うだ。捨と。連も。首も。袖も。袖尾へ偶
殺と。実貫れ。若と。聲をかづりふ。掌にしけよ頬。どうくる。備右太郎信
長公。長城も。く。歎きの様。よりよへ。崎登る城。敵墜し。突墜し。たふ
拠と。右。み。臺。一。寒声。嘎。ご。凜。ご。と。股。光。眼。ま。ぐ。瞼。ご。と。面貌の情色溢
きやく。獅子王奮迅の猛威を頭にし。猛烈のわざたの暴風に巻きこむと
音て。それば。急雲の疾風と。廻るよう烈しく。柳ぐわざふ。柳根廻る
樹も。激塵に裂いて。燐。棘。城。是や扶桑。かる六十餘箇の城國れ。そ
の天が下ふ冠。くる。君の運傾。くる。最終の波義射や。こぞくり。凜然く。剣
手。小柄く。掉さ。ゆきて。右の腕。手。鎗。瘦。二箇。不。少。で。負。せ。か。し。神。も。裏
を。血。よ。浸。り。白。衣。変。て。紅の。斑。染。と。ぞ。看。くる。城。蘭丸。明智。ケ。勇士。業。



其浦右門山本勘と義ひ在かゝる人音ふく。千斤の弩へ籠丸のうちふを
せどどく。三河から街ひとあらうをせきひ。防ぎゆべ物候ひし。快て衝入
わる勢いと呼もう喚もう急ぐ。遠向ふ敵と追撃る。君今生寄りま
なりふそ成妨ぐる敵の奴軍一卒は士も殿よつて。楊守の跡えられ
二十餘弓の書院足底機の往復するが如く。千乞万奔才隙無く。防
戦すること極大より。猶遂にして傍ざりたれ。他兵も耳目を發せり。信長
公ハ蘭丸の練武実みとあがへし。済生害と期せずきるふや。後
堂に當て退きと安田作兵湯孫くより。書院の様のたゞの陸す。君城
砲立て在りる。それと音るより。躊躇と退幕とすまづ。呼鄙怯から御舉
止や。返させゆふ。不屈歎止と声うみて。電光の様く走侍。之とひ安田作
兵湯國次よひ一鎗すみをひらさんと叫び成駄て衆蘭丸やされ作兵

濟いつも通り通りたる。済生害の妨かとこそを瞋懐かれ。止まれやれ。と退
畢ふ。遠脇大臣安田と同と駄糞并木と。一廳にひら舞は。障紙引き圖
タハ一。時刻ハ午にをなれど。外戸の放矢。残燈の獨宿をしてあつたれ。
信長公の影不す。障紙は浮銀タク紙にてその神教を目的とひ。鉄も
徹毛と障紙隔ふ。丈八の鐵を五六尺。放放と突にかね久和らば。底至ひ
て。餘銃動けば。成たりと障紙砲破て。狂拔らんとする有頬より。震震の墜
る。不ぞく。森蘭丸長泰と音怨なるかと人ふ叫び。奔蒐て鎗突發す。成
作兵湯國次。是端怒し。ひ得こうとひ。柔ふ。障紙の内一鎗ある。餘毛根
と抜ぬいて。蘭丸が鎗の鉄尖を丁地附止。聞くと件よ我叫び合せ。鎗然と
勇士と勇士他兵ハ明智の隊中。小舟代も。せく安田國次。自らハ鐵田を
以て。勇を雙の。森蘭丸長泰あり。ひき城へづれと猪房の程も。れど

森蘭丸

長春

狂猛を

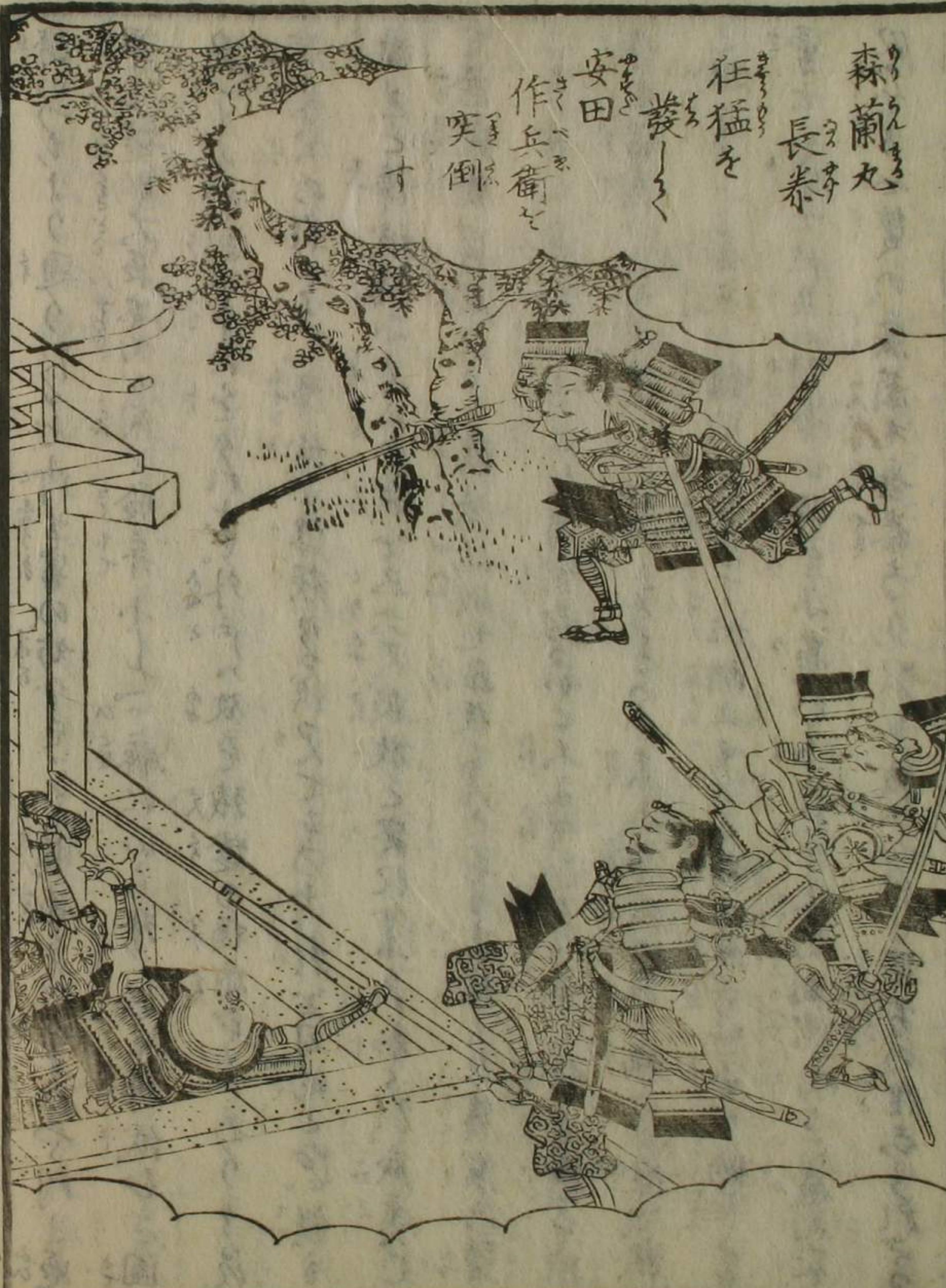
義

安田

作兵衛を

突倒

す



激突烈刺。蘭丸當日の歩槍ハ獨孤の地小移の丸と。紅と白と赤深敵したる
程を看り。銃三尺棟柄ハ三間十文字の鎧推乗たゞ。享年積て廿二歲卒於
佐川井子もあるサトニ羨人の聞え最仰し。安田作是第國次ハ豫て期した
る軍場されば。鎧奥網き。黒鞆の胸丸。肩の二隅を白く綴糞せし。大袖小
袖を縫ひ着。紅糸の鞆を金なる兜と被振。手刀戒刀。藏剣刀。宵具。大
小丈八の裁ち。捷て我と相へ龍馬や。久ん虎はやあらん。中に就て蘭丸
を。方侵同前。小圓吹。君を利する奮恨の骨小撇して惄念あれば。忠義古
事。小張烈して。やまう安田と活安づきと。大歎も崩るもむろりに怒喝。死を畏
きする様。す。源の圓吹射爾。仰ひ中大よ威恐す。軍に熟練。うむ者
の作多傷。す。蘭丸哉。旁らして。殴人をもととす。右へ流した。拂ひ
すこゝ進みてかかの小退き漸次こゝに保頬まで。躍邊をして。通至。やく成

蘭丸急燥て。齊力に信せ。唯一寢にて。渴と叫び。安田もうち渴。敵相ふ。大地
へ。飄帆と。逃んとして。逃過て方石を。畳累たる。櫻酒樽。躰渴か。蹠脚と疊
たり。蘭丸渴く。忍きあらくも。入店家と。誠せんと。大連城。天罰をも
ひ志向く。十文字。槍を。推抜。愁し。かがみ。ひき。小骨固も。激慶。小あれ
と。全副力。全輸陰の底までも。敵きよかーと。棚下せ。重み。草摺。突徹
して。駒股へ。ひき。當て。十文字の又の及にく。松代。鞍風と。鷹砍たき。ハ骨
骨を。焚すれ。餘きる銃夫碑。よ。碣止と。當て。大を放て。尋常の家
ら。魂も消す。りし。日天。中の中。安田。仰。湯。もう。を。怪す。で。蘭丸。が。棚脚
たる。鎧の。揃。そつ。かと。捉へ。く。身を。操。上。す。り。を。の。ま。よ。引起。これ
ほ。ち。刀。印。と。制。手。復。き。蘿。里。小。斬。拂。べ。叫。ま。と。共。に。蘭丸。が。一。雙。の。脚。残

罪深より。一刀三段み破壊され。悲哀しや。右嘆哉烈の英雄也。これか
どかち立持るべし。朽て大樹の倒さ如く。天相み擅と鷹びとらば成四天
又玄清墓碑て惜や首成櫻碑。後安田作玄清ハ三事御子也。又玄清
名をもりて大野源内と改名し。九死ふあり。されど後安田作玄清ハ三事
ども面か禮物の表す。自ら首もて死もとらう。備系太將信長公を後堂也
と寄りせり。四方の閑門よ大を放ち。そのみがふ投るひ。御生害成ぞ
ましくける。逝年は十九歳。おもむく。嗚呼悲哉。天正十年六月二日
せふも如何なる惡凶日ぞ。過昔天文の祐。信長公が天文三年より。今天正十
年六月まで。海内小縱横。しゆひ。威をひの隨小奮ふ。天下に崩乱
を頑張め。庶民が全巣の中に散ひふ。畿七道の敵國も。その英名を聽こ
れ。天魔鬼神の像くに恐畏。証ざる。半の降る革えり。御身は亡き
右大臣に昇進し。大業既小成終を。運械え秀がたぬ小弑せられ

タハ一も。行滅くともあらう。御傍小在合。を士麿任。御尊
骸小茶毗真を蔽掩する。西方より大城うけて。其傍に度を連称。腔十
文字に芟割て。食齋一小火に焚。投り。殉死し。こそ表考あり。されば胸獨
も。濟所方小さく。歎請される。兵士革九十餘人。遂協那庭に端上に疎。方小
ありて。若我せし。大書院多御。牒不遙。大敵と燃燃り。天衢。主神。神
に。人や。主の。主君の。御生害。まく。と察。し。ある。各々敵と。述
利。一個も残らず。我死して。忠義。其名。轟ぜし。嘆を。賞す。廻し

